

# 宮城県考古学会連絡紙

第35号

2006年9月29日発行

事務局 〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1  
東北学院大学文学部歴史学科 佐川研究室気付

## 平成18年度 宮城県遺跡調査成果発表会の日程決まる

平成18年度宮城県遺跡調査成果発表会の日程が決まりました。  
なお、詳細については次号の連絡紙に掲載します。

日程：平成18年12月10日(日) 会場：東北歴史博物館

## 学会情報

### 第12回東北中世考古学会 宮城大会

日時：平成18年10月14日(土)・15日(日)

会場：東北歴史博物館 3階講堂

テーマ：遺跡研究の方法—東北中世考古学の12年—

10月14日(土) 13:00~16:30

公演 「考古学と文献史学」(仮題)

岡田清一 (東北福祉大学教授)

発表

「都市研究の方法」 榊原滋高 (青森県)

「集落遺跡研究の方法」 杉沢昭太郎 (岩手県)

10月15日(日) 10:00~16:00

「城館研究の方法」 工藤直子 (秋田県)

「陶磁器研究の方法」 高桑登 (山形県)

「霊場研究の方法」 川又隆央 (宮城県)

「土器研究の方法」 中山雅弘 (福島県)

討論「東北中世考古学の現状と課題」(仮題)

山口博之・飯村均・柳原敏昭 他

参加費(資料代込) 2,000円

申し込み メールまたは下記事務局へ 締切り 10月10日まで

川又隆央

### 文化財の保存と修復 東北の文化財

日時：平成18年11月11日(土) 10:00~16:15

会場：東北歴史博物館 3階講堂 入場無料

主催：文化財保存修復学会(文部科学省科学研究費補助金成果公開促進費「研究成果公開発表(B)」)

日程 <総合司会> 松田泰典(東北芸術工科大学)

10:00~10:05 開会挨拶

文化財保存修復学会会長・実行委員長 三輪嘉六(九州国立博物館館長)

<座長> 西浦忠輝(国土舘大学)

10:05~10:50 基調講演「東北の歴史と文化財」

入間田宣夫(東北芸術工科大学・東北大学名誉教授)

<座長> 村上隆(奈良文化財研究所)

10:50~11:20 「平泉の文化を世界遺産へ」 工藤雅樹(東北歴史博物館館長)

- 11:20～11:50 「特別史跡多賀城跡の保存と整備」  
進藤秋輝（多賀城跡調査研究所指導委員）
- 11:50～12:20 「東北の文化財をまもる」 手代木美穂（東北芸術工科大学）  
＜座長＞ 村田忠繁（元興寺文化財研究所）
- 13:30～14:00 「特別史跡大湯勸環状列石（ストーンサークル）の保存」  
沢田正昭（国士舘大学）
- 14:00～14:30 「地震で被災した歴史資料を保全する」 平川新（東北大学）
- 14:30～15:00 「特別史跡三内丸山遺跡とその保存対策」 岡田康博（青森県教育委員会）  
＜デモレーター＞ 松田泰典（東北芸術工科大学）
- 15:15～16:05 パネルディスカッション「東北の文化財を未来へ遺す」 講演者全員
- 16:05～16:15 総括と閉会挨拶 三輪嘉六（九州国立博物館館長）

#### 参加申込み方法

氏名、郵便番号・住所、電話番号、職業、E-mailアドレスなどを、E-mail・はがき又はFAXで下記事務局までお申込下さい。

「文化財の保存と修復（Ⅱ）事務局」（株）クバプロ 内）

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-15 UED ビル 6F

TEL 03-3238-1689 FAX 03-3238-1837

E-mail bunkazai@kuba.jp 専用ホームページ URL <http://www.kuba.co.jp/touhoku/>

## 博物館等イベント情報

### 東北歴史博物館

#### 特別展「とつけき！おもしろ博物館」～むかしのくらしをたんけんしよう～

期間：前期展示 9月26日（火）～11月26日（日）

後期展示 12月1日（金）～平成19年2月4日（日）

#### 館長講座

テーマ：「平泉への道」（全20回）	開催日
第11回「平安時代の東北南部（2）」	10月21日（土）
第12回「平泉の時代へむけて」	11月18日（土）
第13回「初代清衡の時代」	12月 2日（土）
第14回「中尊寺」	12月 9日（土）
第15回「二代基衡の時代」	12月16日（土）

\*いずれも午後1時30分から3階の講堂で行われます。

#### ギャラリートーク（考古学関連のみ）

開催日	テーマ（担当者）
10月 4日（水）	「宮城の横穴について」（高橋栄一）
11月29日（水）	「穴をあけた土器のはなし」（渡邊直樹）
12月 6日（水）	「米作りの道具」（山田晃弘）
12月13日（水）	「縄文人のおしゃれ一櫛一」（手塚均）

\*いずれも午後2時00分から総合展示室他で行われます。

問合せ先：東北歴史博物館 TEL 022-368-0106（問合せ専用電話）

### 仙台市博物館

#### 特別展「大江戸動物図鑑 子・丑・寅・・・十二支から人魚・河童まで」

期間：9月22日（金）～11月5日（日）

#### 企画展「江戸時代の知恵とわざ - 教える・学ぶ・伝える - 」

期間：11月17日（金）～12月24日（日）

#### 第45回文化財展「語り始めた遺跡たち 沼向遺跡・長町駅東遺跡・若林城跡」

期間：10月17日（火）～10月29日（日）

仙台市博物館1階ギャラリー

### 講演会「語り始めた遺跡たち」

日時：10月22日（日）13：30～

会場：仙台市博物館ホール

講師：東北歴史博物館館長 工藤雅樹氏

問合せ先：仙台市博物館 TEL 022-225-3074

## 仙台市縄文の森広場

### 7月15日にオープンしました。

ガイダンス施設では、山田上ノ台遺跡の発掘調査を通してわかってきた縄文時代の生活の様子を展示しています。野外には、豊かな森に囲まれた縄文村の様子を3軒の竪穴住居とともに復元しています。また、土器作り・編布作り・石器作り・アクセサリー作り・火起こしなどの体験活動ができます。\*体験活動は、個人・家族の場合は予約不要。10名以上の団体の場合のみ予約が必要です。

場所：仙台市太白区山田上ノ台町10番1号 TEL 022-743-6771

## 多賀城市埋蔵文化財調査センター

### 第20回企画展 「大宰府と多賀城 西と東の古代都市」

期間：平成18年11月1日（水）～平成19年1月14日（日）

記念講演会「古代都市発掘一大宰府・多賀城発掘調査最前線」

日時：12月9日（土）13：30～

講師：山村信榮氏（大宰府市教育委員会）（予定）

多賀城市埋蔵文化財調査センター 職員

問合せ先：多賀城市埋蔵文化財センター 調査係担当：鈴木、石川  
TEL 022-368-0134 FAX 022-368-0132

## 奥松島縄文村資料館

平成18年度 奥松島縄文村講演会

### 「奥松島のこれからを考える」-奥松島の縄文的景観と歴史を護り、地域を活かす-

日時：10月15日（日）13：30～16：30

会場：東松島市コミュニティセンター

日程：13：40～第1部 対談「奥松島の縄文的景観と歴史を護り、地域を活かす」

岡村道雄（奈良文化財研究所企画調整部長）

本中 眞（文化庁記念物課主任文化財調査官）

14：45～第2部 シンポジウム「奥松島のこれからを考える」

司会 岡村道雄

パネラー 本中 眞

松本秀明（東北学院大学教養学部教授）

三橋 勇（宮城大学事業構想学部教授）

尾形一男（宮戸地域振興推進協議会会長）

問合せ先：奥松島縄文村歴史資料館 TEL 0225-88-3927

## 宮城県内の発掘調査情報

市町村名	遺跡名	所在地	調査期間	調査主体	時代
大崎市	南小林遺跡	大崎市古川小林	～12月中旬	大崎市教委	古代
多賀城市	市川橋遺跡	多賀城市市川	5月～11月予定	宮城県教委	古代・中世

\*古代の道路跡とそれに伴う土器埋設遺構を検出。

蔵王町	<b>六角遺跡</b>	蔵王町小村崎	5月～11月予定	蔵王町教委	古墳～中世
* 縄文時代の落とし穴、古墳時代～平安時代の竪穴住居跡・溝跡などを検出。					
美里町	<b>一本柳遺跡</b>	美里町小牛田	6月～10月予定	美里町教委	古代・中世
* 古代～中世の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡などを検出。					
加美町	<b>壇の越遺跡</b>	加美町宮崎	5月～11月予定	加美町教委	古代
* 古代の材木堀跡・道路跡などを検出。今後、南北大路と南2道路との交差点付近を調査中。					
栗原市	<b>三玉城跡</b>	栗原市	7月～10月上旬	栗原市教委	中世
* 4つの曲輪が連なり、各曲輪が上幅10m程の堀切で分断される中世の連郭式城館跡を検出。					
大衡村	<b>旧大衡役場前遺跡</b>	大衡村	8月～10月上旬	宮城県教委	古代
* 溝跡・土壇・柱穴等や土師器・須恵器等を検出。					
亶理町	<b>三十三間堂官衙遺跡</b>	亶理町	9月～10月	亶理町教委	古代
* 亶理郡衙の倉庫院の礎石建物と北側区画溝跡の調査。					

## 宮城県内の現地説明会情報

### 「多賀城跡第78次調査現地説明会」

調査主体：宮城県多賀城跡調査研究所  
 日時：10月21日（土）10：00～  
 場所：多賀城政庁跡南側  
 内容：政庁－南門間道路跡と城前地区官衙の調査

### 「壇の越遺跡現地説明会」

調査主体：加美町教育委員会、  
 日時：10月28日（土）10：30～  
 場所：加美町鳥嶋地区  
 内容：南北大路で八脚門跡を検出

### 「三十三間堂官衙遺跡現地説明会」

調査主体：亶理町教育委員会  
 日時：10月29日（日）13：30～  
 場所：亶理町大隈字下郡  
 JR常磐線逢隈駅西側

## 研究部会の動向

### 古墳時代研究部会

#### 「宮城県における関東系土師器の一樣相」

発表者：大崎市教育委員会 高橋 誠明  
 日時：10月28日（土）15：00～  
 場所：東北学院大学考古学実習室（東北学院大学土樋キャンパス内）

### 阿武隈水系研究会

#### 「国史跡・阿津賀志山防塁の見学」

日時：11月26日（日）13：30～  
 場所：福島県国見町  
 指定地3カ所を見学します。  
 集合予定場所：国見町県北中学校北の国道4号線沿い上り側パーキング  
 参加申し込み先 日下和寿まで ※個人情報につき連絡先削除"

人類は有史以来、戦いを繰り返してきたと言っても過言ではない。最近も中近東地域の情勢は不安定さを増しつつあり、私たちの日常の石油製品価格にも影響が及んでいる。文化財の視点で見れば、戦争というものは常に文化財の破壊行為以外の何者でもなかった。戦闘行為による直接的な文化財の破壊、戦闘終了後の混乱時に行われる勝者による略奪がある。近年、記憶に新しいところではイラク戦争集結直後におけるイラク国立博物館での収蔵品略奪等がある。この時はイラク国民によって略奪が行われたようである。

そこで、文化財保護の視点から、管見に入った戦争の犠牲となった文化財の事例とそれに関連することをまとめてみたい。

宮城県内の文化財で太平洋戦争後、占領軍及び軍人によって持ち去られたものには、次のものがある。白石市鷹巣古墳出土土装飾品類（白石市史考古篇、22頁）、蔵王町刈田嶺神社の白鞘御宝刀（河北新報昭和63年5月8日朝刊記事）、七ヶ浜町清水洞窟出土の「日置」墨書土師器（塩竈市史Ⅲ別篇1、100頁）、他県の例では福岡市櫛田神社からは博多金判（矢部倉吉 1973『改訂新版古銭と紙幣』）がある。博多金判は、後に買い戻す形で日本へ戻ってきている。鷹巣古墳群と清水洞窟のものは依然所在がつかめていない。

一方、戦時中唯一、地上戦の舞台となった沖縄県では、多数の文化財が持ち出されたことが判明しており、喜舎場静夫氏が中心となって、精力的に文化財の返還活動が行われている（日本経済新聞、平成18年7月7日朝刊記事）。

刀は戦後、武器として回収されたが、その中には文化財及び美術品と呼ぶべきものが多く含まれていた。先に記した刈田嶺神社の白鞘御宝刀は焼却寸前だったものを従軍牧師が持ち帰り自宅で保管し、今日に伝えられ、最終的に刈田嶺神社に返還されたものである。国内で回収された刀のうち美術品として海洋投棄、焼却を逃れ、戦後長く保管されたのが赤羽刀である。これらは、平成7年の議員立法に基づき、一部所有者の判明するものを除き、全国の公立博物館等に配分された。

意外に知られていないが、持ち出された文化財の中には国指定重要文化財等も含まれていることである（文化庁監修、文化財保護提要―国指定文化財等件数一覧）。所有者不明のものと、戦後連合国側に提出したまま返還されないものが計19件ある。

一方、戦時下において貴重な文化財を護る活動も行われた。東京国立博物館資料の一部は岩手県旧浄法寺町小田島家に疎開処置がとられた（熊谷常正『ばれお』29号、岩手考古学会）。大山史前学研究所資料は疎開を図ったものの、仙台駅構内において空襲によって焼失してしまった（阿部芳郎『失われた史前学』67頁）。斎藤報恩会職員であった片倉家15代当主信光氏は汽車通勤の際、報恩会史料を少しづつ背負って白石へ疎開させ、空襲の被害から護っている（風間観静、『仙台郷土研究』復刊第10巻第1号通巻230号）。

古い話になるが、白石市当信寺の阿弥陀如来立像は、風土記御用書出によると、大坂夏の陣において、片倉家中遊佐勘四郎が、戦火に焼かれた天王寺から持ち帰ったものであるという。戦闘終了後の略奪によるものか、厚い宗教心から仏像を救ったのかははっきりしない（『白石市の文化財』9頁）。

かつて加藤孝先生から文化財調査において、次回もう一回来て、写真や拓本、記録をとろうとは考えるなどいうことを教わったことがある。それは、文化財所在地の政情が不安定になったり、戦争で破壊されたりすることを考慮して、二度とその資料は見られないと考え、記録をとってくるものだというのであった。

近年、私自身も含め外国での発掘調査に参加する経験を持つ方も多くなってきている。各国にはさまざまな過去があることを念頭に置き、国外での調査に赴きたい。

## ホームページの開設のお知らせ

### 宮城県考古学会ホームページを開設しました。

5月の総会決議に基き、7月14日より公開しております。下記のURLまたは各検索サイトにより、「宮城県考古学会ホームページ」で検索いただければ閲覧することができます。現在、イベント情報・会誌『宮城考古学』・入会案内などの情報を提供しております。今後、皆様への情報提供に努めるとともに、ご意見・ご感想をいただき、一層の内容の充実を図って行きたいと思っております。また、各自治体・博物館からのイベント・発掘情報を頂けますようお願い申し上げます。

「宮城県考古学会ホームページ」URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~mkouko/>

## 総務幹事会からのお知らせ

2006年度会費未納の会員の皆様、会費を早期に納入願います。2005年度以前の会費が未納の会員の方に対しましては、会費納入を確認次第、会誌8号をお送りいたします。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

また、住所・電話番号(FAX・E-mail)・勤務先(所属校)などに変更がございましたら、事務局までご連絡願います。

※連絡先：総務幹事会 代表 佐川正敏

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号 東北学院大学文学部佐川研究室 宛  
TEL 022-721-3245 FAX 022-264-6530

☆☆☆ 宮城県考古学会刊行物 頒布案内 ☆☆☆

会誌『宮城考古学』第1号(残部僅少)・第4号・第5号・第6号・第7号・第8号

頒価2,500円(送料別)

---

## 宮城県考古学会入会案内

当学会では、考古学や歴史を学んでいる方、興味関心がある方など会員を随時募集しています。

入会申し込みは、氏名(フリガナ)・郵便番号・住所・電話番号(FAX、E-mail)、勤務先(学校名)の連絡先を明記の上、年会費(4,000円・学生等2,500円)を郵便振替にてお送りください。なお、通信欄には必ず「入会」とお書きください。

郵便振替口座 02210-1-41792 宮城県考古学会

---

## 情報・寄稿などをお寄せ下さい！！

今回の連絡紙(第36号)は平成18年11月中旬発行の予定です。考古学に関する情報や寄稿、会員通信にも役立ててもらいたいと思います。また、連絡紙の内容や取り上げて欲しいこと、提言などご意見ご要望もお待ちしております。

概ね10月末日頃までにお知らせいただければ掲載可能です。郵便またはFAX、E-mailで連絡紙代表幹事の茂木までお願いします。

連絡先：茂木好光 宛 E-mail [miyagikouko@hotmail.co.jp](mailto:miyagikouko@hotmail.co.jp)